国家経済研究会に参加して 2 年

国家経済研究会は 2 年前に「再開」された。毎月 1 回、ズームにより土曜日に開催される研究会に休まず参加してきた。京都で毎月開催される「背広ゼミ」とともに、私にとって貴重な研究の場である。

昨日の研究会は、大学院時代の先輩・中村剛治郎さんが「『共同社会的条件の政治経済学』の継承と展開」と題して報告した。写真の『宮本経済学の再評価と継承』丸善出版、2022 年 12 月、第 1 章の 50 ページにわたる中村論文をベースにした報告である。論文の副題「宮本経済学の現代的意義と方法論的考察試論」のように、宮本憲一先生の「共同社会的条件の政治経済学」について、中村さんらしい刺激的な報告であった。

1 時間余りの重厚な報告のあと質疑に移り、最初にコメントした。私も執筆している『現代社会資本論』の評価、もう一点は、「制度」と技術について。後者について紹介しよう。

中村論文は肉厚で難解なところも多く、メモをとり何回も読んだ。とくに気になったのが、54 ページの制度と技術に関わる次のような指摘である。「制度主義アプローチは、技術万能主義を採らず、技術も社会の制度的特徴を帯びると捉え、制度に制約されると同時に、経済や社会を制度的に変えることによって、技術のあり方、技術と社会の関係も変えることができると考える。より健全な経済や社会をめざして、技術のあり方、経済や社会への技術の適用の仕方を制度的に改革する努力を重ねる。」

56 ページの「エコ効率革命という技術的アプローチとは、技術進歩の方向性を資源生産性の大幅な向上の方向に変えて、経済の脱物質化と真のサービス経済化を進めことにより、地球環境の危機をもたらす現在のシステムとサステナブルな経済システムや社会システムに改革することをいうのである」という指摘について質問した。

これに対して、中村さんは詳しく説明してくれた。宮本先生も制度と技術、経済の非物質化、制度学派などについてコメントした。中村さんのリプライは、時間を忘れるかのように続いた。資本主義のあり方、変革の方向と主体など多岐にわたり、宮本先生のコメントとともに多くの示唆を得ることができた。

じつに刺激的な研究会であった。つい大学院時代のゼミに思いを馳せた。中村さんはゼミや研究会などで鋭く問題を投げかけ、当時から注目される論文を執筆していた。私の論文にもコメントしてもらったこともある。忘れられないのが、共同研究の事務局を担当していた頃、私の確認不足もあり、研究費申請に遅れそうなことがあった。落ち込んでいた私をプッシュし、京大で深夜まで一緒に作業してくれた。今でも感謝している。

（2023 年 11 月 26 日）